

平和のつくり手としての越境する民衆連合への模索

帝国とグローバル資本主義への対抗のなかで

武藤一羊

- I アメリカ帝国+ネオリベラルグローバル化の世界—冷戦後米国の軍事支配ドクトリンの破綻、非対称性、グローバル資本主義の成功と破綻（世界社会を道ずれにする自己破壊）、構造的暴力の途方もない激化—原理主義暴力の誘発の土壌、グローバル権力センターと国民国家の関係
- II 安全保障（security）の枠組み
 - 国家安全保障：アジアにおける国家、軍隊、民衆—国家安全保障の神話
 - UNDP人間の安全保障：BHN、生活全体へのシフト、しかし国家、軍隊は？排外主義、反テロ戦争の文脈への組み込み、フィリピン—民衆の安全保障法（Human Security Law）、自警団、国民保護法
 - 民衆の安全保障：(A) 国家=軍隊、(B) アメリカ帝国 (C) 「By the people 民衆による」の契機=越境するつながり、(C) 生きること=総合性・ジェンダー
- III アジアにおける平和—2002年APA結成の教訓、現状維持的平和の不可能性、一般に帝国の軍事とグローバル化による破壊の結合への変革的社会運動・闘いの出現
- IV 民衆の安全保障=民衆連合の可能性：敵対する関係→相互作用→相互関係の組み換え→それを支える内部の変化；沖縄—ぬちどたから、軍隊とジェンダー（高里、エンロー）；インドネシア（女性たち）、911以後の運動、沖縄とグアム、台湾—海峡問題のアプローチ、南北朝鮮；所与の現実を運動によって働きかけ可能なものへ；c.f. レーニン、「帝国主義戦争を内乱へ」；イラクー暴力と連帯—抵抗権とその行使形態、
- V 日本—9条平和主義、非軍事化—(A) 軍事的安全保障（国家、非国家）へのオルタ原理としての普遍性の獲得 (B) しかし戦後日本国家の屈折（3原理）によって特殊化（日米安保と抱き合わせの平和憲法）、逆照明が必要、(C) 越境する連合へ内部から開いていくことができるか。戦後国家の一国主義的惰性をどこから破るか。

以上